安心して行き来できる街づくりに向けた参加型ツールの開発と活用

—鎌倉での応用—

○堀野定雄、小木和孝、千一、有山誠、佐伯英俊（鎌倉バリアフリー研究会）

Development and practical use of participatory tool for user-friendly town planning

-An application at Kamakura-

○Sadao HORINO, Kazutaka KOGI, Hajime SEN, Makoto ARIYAMA and Hidetoshi SAEKI

(Study Group on Barrier Free at Kamakura)

1. 鎌倉のUD安心街づくり

国際観光都市鎌倉で、安心して行き来できる街づくりを目標にUD（ユニバーサルデザイン）を応用した。GIAP（官産学民）協力で役立つ参加型ツールを活用、交通機関・道沿い店舗・寺社の対象別に現場観察・人間工学改善用チェックリストを開発、段差解消、判りやすい案内標識拡充、多目的トイレ整備改善提案に用いた。これら参加型ツールで改善成果を得ているので概要報告する。

2. 方法：UD過程の見える化

UD化に役立つ軽敏な人間工学アクションチェックリストを作成し、視点をそろえながら現地調査を重ね、具体的改善を支援したり確かめる過程を繰り返した。即ち、段差解消（移動のバリアフリー化）、安心できる標識（文脈性ある到達点までの案内）、多目的トイレ（時間軸あるサポート）の3つの視点を反映した改善行動を20項目ほどリストにしたアクションチェックリストを課題ごとに作成（図1-図4）、活用し、いくつか具体的成果を得た。更に、定例シンポジウム参加者による写真投票も活用した。

3. 結果：参加型見える化過程の成果

JR鎌倉駅から年880万人が訪れる鶴岡八幡宮へ至る参拝路小町通りのUD化進捗に学ぶ点が多い。

2003年研究会の166店舗バリアー現状調査（店舗前段差・店舗入口幅・店内通路幅）を8年後2011年154店舗再調査で比較した（図5）。段差評価2：20%（2003）→52%（2011）、入口幅評価2：35%→63%、通路幅評価2：30%→68%とBF化は進展し店舗環境は大幅に改善されつつある。

各店主によると車椅子利用客は明らかに増加、BF化意識も進展、車椅子利用者への協力対応が進み、移動し易い通路幅に拡大、段差解消した、一般客と変わらない接客、車椅子利用者介助に協

「段差などバリアーのない道」

- 1 まちの中を行き来する道の段差をなくす：この改善を提案しますか
☐ はい ☐ いいえ ☐ もう少し検討して考えたい
メモ：
- 2 通り道でのでこぼこを減らす：この改善を提案しますか
☐ はい ☐ いいえ ☐ もう少し検討して考えたい
メモ：
- 3 通り抜ける時の妨げを取り除く：この改善を提案しますか
☐ はい ☐ いいえ ☐ もう少し検討して考えたい
メモ：

図1 簡易式アクションチェックリスト「安心して街を行きするバリアフリーヒント集」の設問例（2004-7）

「段差などバリアーのない道」

「分かりやすい案内標識」

- 4 目的地の方向を示す目立つ案内標識を設ける
- 5 案内標識を読みやすくする
- 6 目的地に行き着くまで親切に示して、行けるように標識をきちんと設ける

「利用しやすいトイレ」

- 7 道行く人が容易に利用できるトイレを設置するか数を増やす
- 8 障害者や乳幼児連れなどの人が安心して利用できる多目的トイレを増やす
- 9 トイレにたどり着く案内を分かり易く設けるか、増やす
- 「ポスターなどの利用」
- 10 散策し、行き来する人が安心して利用できるように、案内したり、休息できたりするように暖かい心意気を向上していくようポスターなどで働きかける

図2 簡易式アクションチェックリスト「安心して街を行きするバリアフリーヒント集」設問項目（2004-7）

- 1 多目的トイレまで円滑に段差なしに行けるように整備する：この改善を提案しますか
☐ 特に提案しません ☐ 提案します ☐ 優先します
メモ：
- 2 入り口とトイレ内部に段差がないようにする：この改善を提案しますか
☐ 特に提案しません ☐ 提案します ☐ 優先します
メモ：
- 3 トイレの内部に容易に入れるようにする：この改善を提案しますか
☐ 特に提案しません ☐ 提案します ☐ 優先します
メモ：

図3「安心して使える多目的トイレアクションチェックリスト」設問例

力する、などバリアフリー対応に一層積極的で、今後の展望も、引き続き改善を進めたい、新しいテナントやビルはBF化に肯定的で、コスト面の

困難性は行政補助金等で対応すると積極的だ。これらは全て各店主の自発的努力の成果で、一部電線地下化工事も進行中で、更にBF化は進展していく見込みである。小町通り店舗状況は観光都市での自主的BF化の動きをよく示す好事例である。

人気が高い神社仏閣へ向かう参道の案内標識も同じ方法・手順で複数改善された。銭洗弁財天を案内する標識の矢印を改め距離表示を付加する改善で観光客迷い行動激減の典型例を示す（図6）。

全国的にファンが多い江ノ電全15駅のBF調査を重ねて鎌倉駅構内はじめ現在では12駅でBF化が完了、残り3駅も電車内BF化と共に進んでいる。

人が集まる所トイレは要る。日本トイレ協会・鎌倉市と共催でシンポジウム「鎌倉トイレフォーラム」を開催した（2010-11、157名出席）。三大古都鎌倉・奈良・京都がBFトイレをテーマに参集、安心街づくり促進を展望した。「トイレは文化のバロメータ」の下、古都トイレ写真30枚対象に参加者が投票（241票）、総得票順で奈良93、京都78、鎌倉70票、奈良公園トイレ23票、鎌倉鶴岡八幡宮多目的トイレスロープ22票（図7）、京都嵯峨落柿舎北公衆トイレ20票で、上位を分け合った。来訪者は環境調和トイレを高く評価した様で、今後の観光地トイレ方向を示唆してくれた。

4. 考察と結論

この10年間取り上げた安心UD街づくり全課題に共通する成果は、研究会で検討し改善提案、それを支える行政との良い対応関係、その一歩毎の過程、即ち市民と行政のそれぞれの努力による良い実践の確認、自主的改善積み重ねとその相互触発の重要性を確認できたことである。

この過程を見える化するため、UDアクションチェックリストの有効性が判った。つまり、見える化とは単純な人間工学的問題点の視覚化でなく、具体的改善を当事者市民の目で見えて自主的に改善して行く過程を支える集団知（実践的知恵）を生かす集団討議を容易化する過程、つまり自在な工夫や現実的一歩毎改善の進行を容易化する過程を採ることである。この様に、当事者の良好実践の共同学習と自主的取組みを容易化し支援する参加型過程が見える化だと分かった。

参考文献

- 1) 日本人間工学会編、堀野定雄、山岡俊樹、岡田明他著「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」、共立出版、2003-6

4. トイレ内部：車椅子利用者用十分なスペースを確保する
 5. 利用しやすい手すりを整備する
 6. 使いやすいオストメイトを整備する
 7. 適切な高さの使い易い洗面施設を整備する
 8. 乳幼児用が使い易い施設を整備する
 9. 多目的トイレに到達できる判りやすい標識を整備する
 10. 多目的と判るトイレ表示をする
 11. 入口開閉方法を判りやすく表示する
 12. トイレ利用方法を判りやすく親切に表示する
 13. 入口の内側から開け方を判りやすく表示する
 14. 水洗方法を判りやすく使いやすくする
 15. 緊急時、内側からの合図を行いやしくする
 16. 入口の開閉方法をやりやすくする
 17. 手すりなどの補助具を使いやすく整備する
 18. 洗面施設を更に使いやすく整備する
 19. 用品の補給を確保する
 20. トイレの清掃保守を確保する
 21. 介助者が安心して介助できるスペースと用具を整備する
- 図4「安心して使える多目的トイレアクションチェックリスト」設問項目

図5 鎌倉小町通り店舗のバリアフリー化進展（2003-2011）

図6 迷いが顕著に減った案内標識改善例

図7 写真投票「風景の中のトイレ」(N:241)